

昭和51年2月25日第3種郵便物許可（毎週4回月、火、木、金曜発行）

令和6年2月1日発行SSKO通巻11556号

膠原栃木版

昭和五十一年二月二十五日第3種郵便物許可（毎週4回月、火、木、金曜発行）
令和六年二月一日発行SSKO通巻一一五五六号
膠原栃木版

<h1>SSKO</h1> <h2>膠原 栃木版</h2> <h3>No.131</h3>	◎編集 全国膠原病友の会 ◎編集責任者 玉木朝子 〒321-0113 宇都宮市砂田町461 ☎028-656-2386 ☎028-656-7260
---	---



春が待ち遠しいですね！

今年は新年早々「能登半島地震」に見舞われ、大変なご苦労をされている方が沢山おられます。避難所におられる方々は着の身着のまま逃げてきた方も多く、持病を持った方の薬はどうしているのか、透析の方は大丈夫なのかと、ニュースを見ながら考えてしまう毎日です。

私たち難病患者にとって薬は命です。日頃から分かりやすい所に、そして持ち出しやすい所に保管してください。おくすり手帳もいざという時は役に立ちます。忘れないでください。

今号は昨年秋に実施しました「医療講演・相談会」での谷口史記先生の講演を掲載いたしました。自治医科大学アレルギーリウマチ科にかかっている患者さんがコロナに感染したときの状態をまとめたものです。新型コロナ感染症は5類に移行し、社会的な対策も変わってきましたが、まだまだ感染者数も多く侮れません。参考にさせていただければと思っております。

又、例年オリオン通りで行われている労働者福祉協議会の「福祉まつり」が今年は宇都宮駅東のマロニエプラザで開催されることになりました。労福協の60周年ということもあり様々なイベントも催されます。ぜひ気軽にご参加ください。

自治医科大学アレルギー・リウマチ科における 新型コロナウイルス感染症の特徴

日光市民病院 内科・総合診療科
谷口史記 先生

これから、自治医科大学附属病院アレルギー・リウマチ科における新型コロナウイルス感染症の特徴についてお話しします。

まず、膠原病ではステロイドなど免疫を抑える薬を使っている方が多くいらっしゃいます。新型コロナウイルスにかかった場合、重症化しないか不安だという声をよく聞かれます。そこで、今回、自治医科大学附属病院アレルギー・リウマチ科かかりつけの患者さんで新型コロナに感染した方どのような特徴があるかを調べました。

2020年11月から今年9月までの3年間で69名の方が感染したということがわかりました。平均年齢は58歳で、ほかの持病としては4割の方で高血圧、3割で脂質異常症、2割の方で糖尿病を持っていたりしていました。元々のご病気の性質があるかと思いますが女性の方が75%となっています。膠原病は、元々の病気に関しては全身性エリテマトーデスと関節リウマチの患者さんが多くて、この2つで約半数を占めています。また、3分の2の方でプレドニゾン等のステロイドを服用していました。

こちらは少し見づらいかもしれま



自治医大アレルギー・リウマチ科における調査

- 2020年11月～2023年9月までに、
69名の方が感染していました。
- 平均年齢は58.6歳
- 4割で高血圧、3割で脂質異常症、2割の方で糖尿病を持っていました。

1名以外は全てオミクロン株の流行時期に感染していました。

発症時期	入院症例	外来診断症例	他院診断症例
2020年10-12月	0	0	1
2021年1-3月	0	0	0
4-6月	0	0	0
7-9月	0	0	0
10-12月	0	0	0
2022年1-3月	0	0	0
4-6月	0	0	0
7-9月	0	0	0
10-12月	0	0	0
2023年1-3月	0	0	0
4-6月	0	0	0
7-9月	0	0	0
不明	0	0	0

せんけれども、1名以外の方はすべてオミクロン株の流行時期である2022年以降に感染していました。緑のところがほかの病院で新型コロナと診断された方の数です。青のところが自治医大で診断された方、赤のところが自治医大に入院された方の数となっています。

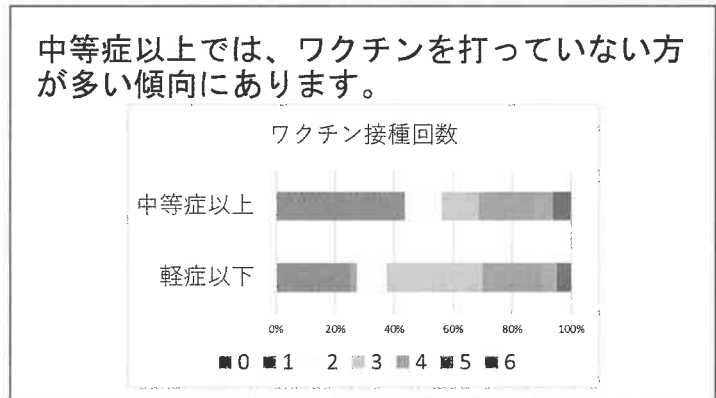
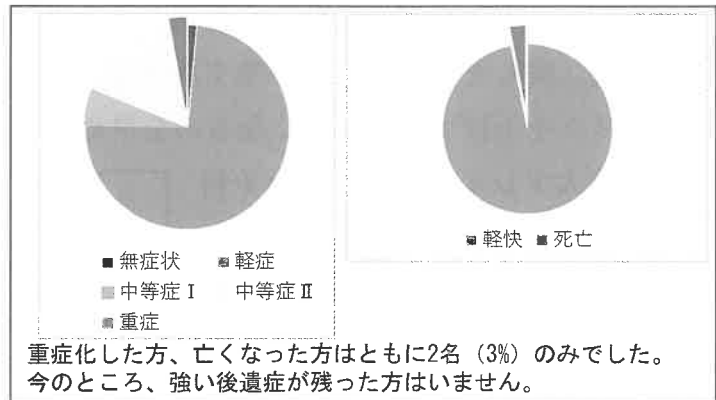
4分の3の方が軽症か無症状となっています。重症化した方、それから亡くなった方、これは共に全体の3%に当たる2名の方になっております。現在までのところ強い後遺症が残った方はいません。

亡くなられた2名の方の特徴としては、70歳代の方で元々あった間質性肺炎が悪化した、あとは、50歳代の方で集中治療室にいる間に細菌による肺炎などの合併症を起こしてしまったということがあります。

一方、厚生労働省が発表しているオミクロン株の致死率に関しては、60歳未満で0%、80歳代でも1%台と、季節性インフルエンザと同等になっています。

こちらがワクチン接種回数のグラフになっております。こちらをご覧くださいますと、中等症以上の方でワクチンを打っていない方が多い傾向にあることがわかります。

新型コロナの治療薬に関してですが、入院で使う薬としてレムデシビル・デキサメタゾン・トシリズマブ・バリシチニブ、こういったお薬があります。レムデシビルはウイルスの増殖を抑えるお薬です。トシリズマブ・バリシチニブ、こちらについては肺炎になってしまった方に免疫を抑えて臓器が傷つくのを防ぐために使用されます。普段からリウマチのお薬として使っていらっしゃることもありますが、これに関しては新型コロナの発症予防効果というものはありません。



主なコロナの薬

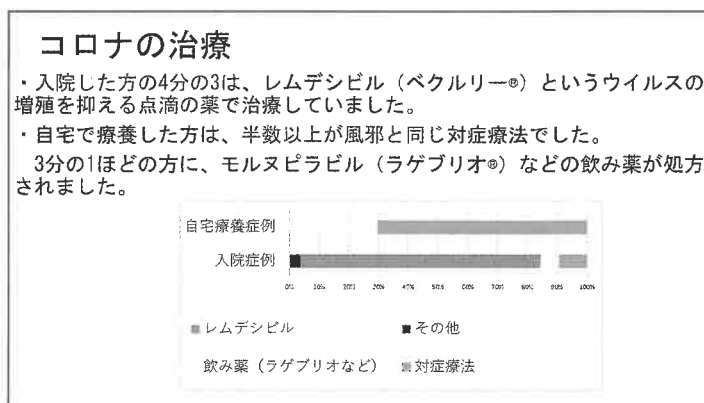
<入院で>

- ・レムデシビル（ベクルリー®）：ウイルスの増殖を抑える点滴 5日間
- ・デキサメタゾン（デキサート®、デカドロン®）：
炎症を抑えるステロイドの一種 点滴・内服 10日間まで
- ・トシリズマブ（アクテムラ®）：
炎症を抑える点滴（もともとはリウマチなどの薬）
- ・バリシチニブ（オルミエント®）：
炎症を抑える飲み薬（もともとはリウマチなどの薬）

※トシリズマブ、バリシチニブは入院を必要とする肺炎になった方に、免疫を抑えて臓器が傷つくのを防ぐために使用されます。普段から使っていてもコロナの発症予防効果はありません。

次は飲み薬についてですけれども、モルヌピラビル、こちらに関しては飲み合わせが悪い薬はありませんが、吐き気や下痢などの消化器症状が出やすいお薬となっています。ニルマトレルビル・リトナビル、こちらに関しては、一部の高血圧の薬やタクロリムスなどのリウマチの薬との飲み合わせが非常に悪いところが欠点となっています。最近出てきたエンシトレルビルに関しても同じように飲み合わせの悪い薬がたくさんありまして、効果に関しても不明な点が多くなっております。どの薬も特効薬ではなくて、重症化のリスクを下げて症状が良くなるのを早めるお薬となっています。

自治医大アレルギー・リウマチ科では、入院した方の4分の3でレムデシビルというウイルスの増殖を抑える点滴のお薬が使われていました。一方で、ご自宅で療養された方に関しては半数以上が風邪と同じ対症療法となっておりまして、3分の1ぐらいの方が先ほどご紹介したコロナの飲み薬を処方されています。

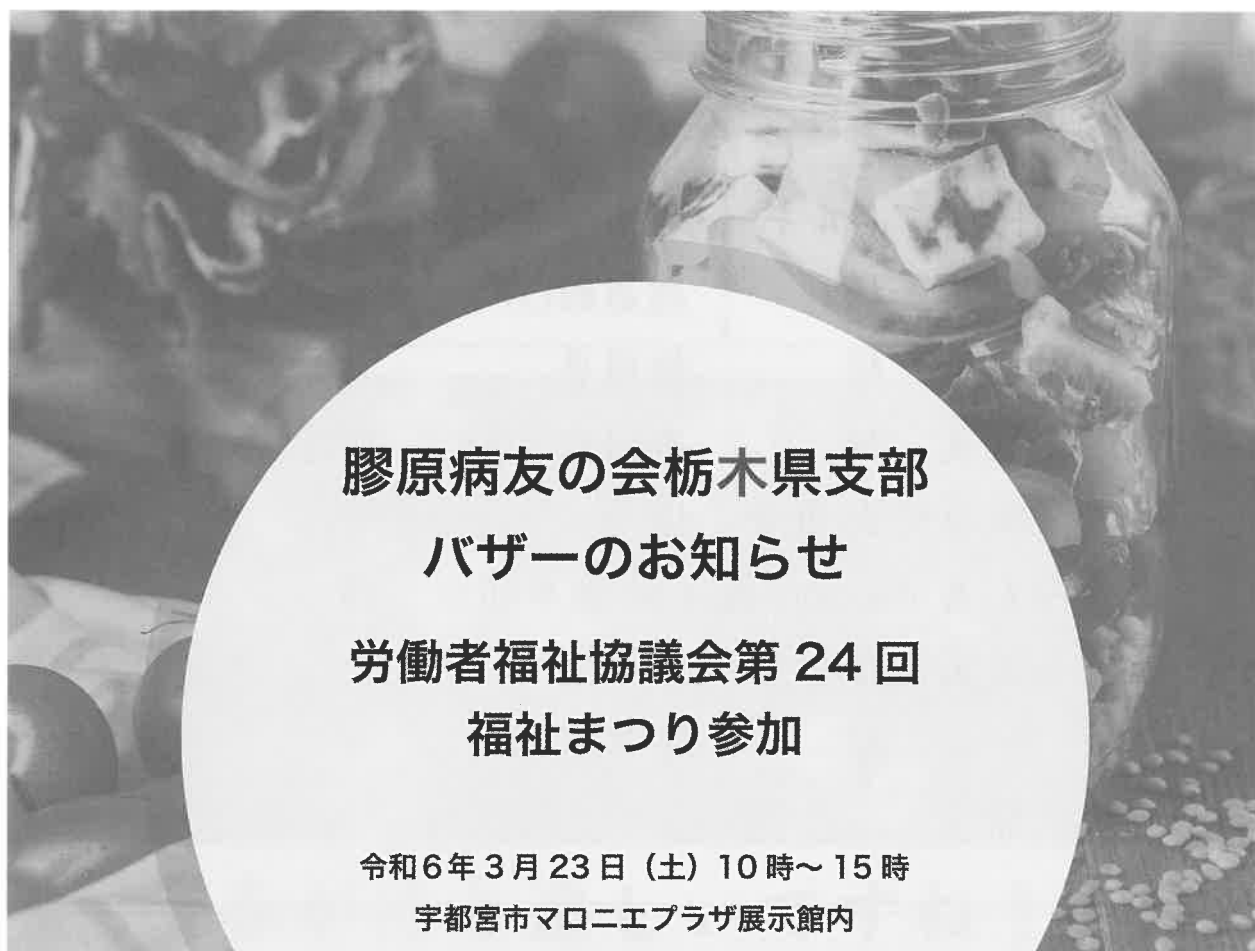


特に気をつけなければいけない方もおりまして、高齢者の方は、コロナにかかった場合は亡くなるリスクが高い。あとは、高血圧がある方は入院を必要とする可能性が高くなるということが日本リウマチ学会の調査から報告されております。

では、かかってしまった場合にはどうすれば良いかというお話になります。先ほどご紹介しましたように、膠原病の患者さんが新型コロナに感染した場合であっても大半の方が軽症で済みます。38℃以上のお熱が3日ぐらい続くということは非常によくあります。ですので、まずはご自宅で療養されてください。4日目以降も38℃を超えるような高熱が続いた場合は、肺炎に移行している可能性がありますので病院で血液検査やレントゲンなどの詳しい検査を受けることをおすすめします。

まとめになります。リウマチや膠原病の患者さんが新型コロナにかかった場合でもほとんどが軽症で済みます。高齢の方や高血圧がある方は注意が必要で、引き続き感染予防に努めてください。ワクチンについては、後遺症を減らせるという報告もありますので、基礎疾患や副反応に個人差が大きいことも考えると、まずはかかりつけの医師に相談のうえで摂取を検討されると良いと思います。また、新型コロナに関しては特効薬はなく、自分の免疫で治る方がほとんどとなっております。以上でございます。

(講演終了)



**膠原病友の会栃木県支部
バザーのお知らせ**

**労働者福祉協議会第24回
福祉まつり参加**

令和6年3月23日（土）10時～15時
宇都宮市マロニエプラザ展示館内
宇都宮市元今泉6-1-37
028-664-2266

福祉まつりイベントとして、大道芸や、模擬店、プロレスなどが催されます。
ぜひ楽しみながらご参加ください。

バザー出店の品物のご協力をお願いいたします。

（古着は申し訳ないのですがご遠慮ください）

連絡先 321-0113 宇都宮市砂田町461-1
全国膠原病友の会栃木県支部（028-656-2386）

ご寄附御礼

自治医科大学アレルギー・リウマチ科 佐藤浩二郎先生

岩本 治美 様 鹿沼市

松村 典子 様 静岡県

満川 博美 様 鹿沼市

栃木県職員労働組合 様

こくみん共済coop栃木推進本部 様

五月女茂司 様 宇都宮市

高松 一仁 様 宇都宮市

匿名 様

編集後記

連日能登半島でおきた震災の様子が報道されています。悲惨な状況を見るにつけ、どうしても13年前の東日本大震災のときのことが思い出されます。あの時も県北は断水が長く続き、透析病院の方々が大変なおもいをいたしました。福島や茨城の患者さんを受け入れるため、栃木の患者さんも夜間透析など時間をやりくりして協力していました。今回の状況を見るにつけ、現場の方々のご苦勞が思いやられます。

倒壊した建物の中から、九死に一生を得た方も沢山おられます。そうした方々がせつかく助かった命を落とすことがないように、行政のきめ細かな援助を望んでおります。